

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着型サービスの意義を理解し、法人の理念に基づきグループホーム独自で地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化を謳った理念を作り上げている</p>	○	サービスの意義を職員全員で確認し住み慣れた地域での安心した暮らしを支えるための柔軟な支援を行いたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員の採用時には、必ず理念を伝え、理解してもらえるようにしている。また、毎朝、ミーティングでは理念を職員全体で唱和し、理念に基づくケアの実践を図っている</p>	○	全職員が運営方針や目標を理解し、常に和み、尊厳、安心の下に接遇して行く。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>リビングの壁のわかりやすい所に掲示すると共に家族や地域の人々に理解していただけるようホーム便りや行事等で理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の療育教室の子供達と共にグループホームの菜園で作ったイチゴやサツマイモなどを収穫し一緒に食べるなど交流に努めている。</p>	○	日常的な繋がりを大切に良好な関係を築き、気軽に立ち寄ってもらえるように努める。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>母体法人が地域に根ざしており地域の理解は深く地域の祭りや行事に参加して良好な関係にある。</p>	○	地域の文化祭やお祭りに利用者と共に積極的に参加して地域との交流をより深める。

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	母体施設が昭和31年より地域に根ざしており、事業所や職員が常に地域の高齢者の暮らしに役立つよう取り組んでいる。また、老人会やその他団体とも連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で評価の意義は理解し、評価で指摘された事項については職員会議等で話し合い、改善できるように努めている。	○	評価を活かして改善に取り組み、サービスの質の向上に努める。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において現在のグループホームの現状を理解していただくように努め、また、外部評価の結果についても報告し、質問や意見をサービスの向上に活かせるように努めている。	○	評価結果を踏まえ取組みの内容について報告し意見をもらい、改善にむけた具体的な取組みにつなげる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは常に連携を図りサービスの向上に取り組んでいる。	○	積極的な情報提供を行い、事業所の現状を市町村担当者に理解していただき、助言をを仰いでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度等について理解し個々の必要性について関係者等と話し合い、必要な方には活用できる支援体制がある。	○	母体施設等法人全体で利用者に不利益にならないよう法律事務所や司法書士事務所等と常に連携を図りそれらに取り組んでいる。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取組みを行っている。	○	高齢者虐待防止関連法の理解を図り虐待の徹底防止に努める。

グループホーム幸せの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約については利用者及び家族・近親者等に十分な説明を行い理解納得していただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見や要望、苦情等を内外問わず表せるよう機会は設けており第三者委員等に相談できるよう書面にて説明し相談しやすい体制をとっている。また、それを記録し職員会議等にて検討し反映させている。	○ 利用者から要望や意見・苦情等は言いにくいこともあり気軽に意見、苦情を言えるように日々の接遇を通して信頼関係の構築に努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや心身の状態、職員の異動については面会時、電話、ホーム便り等にて報せている。金銭管理については3ヶ月毎に書面により金銭出納報告をしている。	○ その月の利用者の様子を簡略に書面にし、利用料請求書を郵送する際に同封している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族等から意見や要望、苦情等内外問わず表せるよう機会は設けており第三者委員等に相談できるよう書面にて説明し相談しやすい体制をとっている。また、それを記録し職員会議等にて検討し反映させている。	○ 利用者はもとより家族からも意見、不満、苦情等は言い難く、玄関にご意見箱を設置するとともに気軽に意見、苦情等を言えるよう家族の面会時には利用者の近況を伝え常に職員と家族の信頼関係を築けるように努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の処遇について職員の意見や提案を聴く機会を毎月の職員会議として設け、充分に各職員が発言出来るように常に働きやすく言いやすい職場を目指し、運営に反映させている。	○ 毎月職員会議等で職員の意見や提案を聴くため、日頃の職員間のコミュニケーションを図り意見等を言いやすしている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化や要望に柔軟に対応できるよう職員を確保している。また、緊急な場合母体施設よりの支援体制が確保されている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者やご家族へ信頼関係を築くことを重視し、馴染みの職員が留任できる様に努めているが、異動や離職が止むを得ない場合は出来るかぎり利用者の不安を取り除き、理解を得られるよう最善の努力をしている。新しい職員が入る場合はお互いが慣れるまで勤務時間のシフトを配慮している。	○ お茶の時間に新しい職員を紹介し、利用者にもそれぞれ自己紹介をしていただき和やかな雰囲気の中で新人職員を受け入れてもらえるように配慮している。

グループホーム幸せの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会や学習会等には職員が順番に参加できるようにしている。事業所外で開催される研修会にもなるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、毎月の職員会議で研修報告をしてもらい報告書を閲覧できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>研修会や学習会は業務を考慮しながら、受講の機会を積極的に参加できるように確保していく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡会に参加し、その中で学習会や交流を持つことにより、スタッフの質の向上に励み、他事業所等と学習会や交流会を持つことにより事業所としてサービスの質の向上を目指している。また、そういった研修会や他の事業所の見学等を通して、事業所外の意見や経験を取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>連絡会等の学習会や交流会に参加し、職員、サービスの質の向上を目指している。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するように努めている。疲労やストレスの要因について気を配り、また休憩室を確保し気分転換を図ったり、職員同士の人間関係を把握するように努めている。</p>	<p>○</p> <p>日常のコミュニケーションを図り職員のストレスや悩みを把握するように努める。職員同士の人間関係を把握するように努める。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行っている。資格取得後は意向を重視しながら資格を活かせるよう環境づくりに努めている。</p>	<p>○</p> <p>資格取得に向けた支援を行う、また、資格を活かせる労働環境づくりに努める。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に心身の状態や生活暦を知るように努め、本人に会って心身の状態や不安を理解しようと努めている。また、初期の関係づくりにはより個別に接遇し、ご本人に受け入れられるよう努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人の現在の心身の状態やそれに関わるご家族の思い、困っておられること、ご希望などご家族等が必要としている求めについて傾聴し、本人にとってどのようにすれば最も良いのかなど話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族等が必要としている求めについて理解し、どのような対応ができるか十分に話して行く。</p>

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族と共に状況等を確認し、今、何が必要かを見極め、改善に向けて支援の提案や関連するサービスについても話し合い検討していく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に職員が利用者宅を訪問し、また、事業所を見学していただくことで利用者に職員や事業所に馴染んでいただく。その後、お茶、食事、泊まりと徐々に体験的に利用いただき納得し安心できた上で安定的な利用に繋げて行っている。また、緊急な利用になった場合は家族や関係者に来ていただくなど協力を仰いでいる。	○	事業所を見学していただいたり体験利用を勧める等して本人が納得し、安心できる利用に繋げる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の苦しみ、不安、喜び等を知るように努め、暮らしの中で分かち合い共に支えあえる関係づくりに留意している。利用者には人生の先輩としてその経験、知識を伝授してもらいながら、共に作業、労働し、和やかに生活できるよう留意している。	○	生活を共にすることによってお互いに喜び、楽しさを共有し、又、お互いの苦しみ、不安を理解でき、お互いの立場を尊重できる共に支えあえる関係づくりに留意したい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の生活暦や入所前の様子をお聞きし、現在の利用者をより深く知ろうと努めている。現在の利用者の日々の暮らしの様子や思いを細かく伝え、家族と共に本人を支えていくための協力関係が築けている。	○	家族でなければ分からないこともあるので利用者の言動に理解できないことなどあれば様子を電話で伝え、家族と共に考え、協力の下に対応を検討する。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の状況を見極めながら、外出、外泊等で家族と一緒に過ごす機会を設けたり、行事に家族も参加していただき、より良い関係作りを支援している。	○	外出や行事に家族等に参加いただき一緒に過ごすことでより良い関係を傷来ている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の行きつけの美容院へ行ったり、地域の知人たちが訪問したり一人ひとりの生活習慣を尊重し、支援している。	○	行きつけの理美容院へ行ったり、一人ひとりの生活習慣を尊重し支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話しを聞いたり、相談に乗ったり、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に摂り多くの会話を持つようして利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。	○	一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわりを持ち支えあえるように努める。

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所や他の事業所へ移られた方についても、その方の心身の状態、対応、支援についてなど家族からの相談を受けている。また、機会があれば訪問している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と日々のかかわりの中で言動、表情などから本人の意向等の把握に努めている。また、ご家族や関係者からも情報を得るようにしている。	○	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い把握につとめる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの関係についてご本人やご家族、関係者などから聞き取るようにしている。	○	在宅で暮らしておられた頃の趣味、特技、生活習慣等を聞き取り、グループホームでの生活に反映できるように工夫していく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の一人ひとりのADLと生活リズムを理解して、日々の言動に注意を払い総合的に把握するよう努めている。	○	本人の持っている生活力を暮らしの中で発見していくことに努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	グループホームでの生活についてご本人やご家族等の思いや意見を聞き、日々の生活の中で常に心身の状態を観察し、現在の本人の状況を理解した上で出来る限り反映させるようにしている。職員会議等でモニターリング、カンファレンスを行ない、対応等について意見交換をしている。	○	家族の意向も尊重しながら、本人の心身の状態に添った課題やケアのありかたについて、話し合った結果を元に介護計画を作成していく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ご家族やご本人の要望を聞きながら、計画期間が終了する前に見直した、状態等に変化があった場合には計画の見直しを行なっている。	○	期間にとらわれず、変化に応じて本人の、家族、必要な関係者と話し合い、臨機応変に見直ししていく。

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に身体的状況や日常の暮らしぶり等をケース台帳に記録し全ての職員がいつでも確認できるようにしている。	○	職員しか知りえない事実やケアの気づきを具体的に記入しそれらの情報を共有しながらよりよいケアに向けていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合施設の利点を生かし本人の心身の状態や家族の状況に応じて、在宅復帰や特別養護への入所への支援、また入院等についても送迎や受診等の必要な支援を柔軟に行なっており満足していただくように努力している。	○	利用者の心身の状態の低下に伴いその人らしい生活を送っていただくためにグループホーム退居後の生活についても支援する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らせるように民生委員、消防、警察等との連携をとっている。		安心して暮らせるよう消防、警察、図書館等地域の遡源や民生委員等と普段から連携を取る。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて適切に事業所以外のサービスとつなげるようケアマネジャー等と連携を図っている。理美容等についても本人の体調等に応じて、訪問サービスの利用できるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員にも運営推進会議に参加いただき周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行っている。また、病状に応じて対応できるよう複数の医療機関と関係を密にしている。	○	本人や家族等が希望する医療機関や馴染みの医師による医療を受けられるように支援する。

グループホーム幸せの里

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>信頼関係を築きながら、継続的に専門医の診察を受け適切な指示や助言をしていただく。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>利用本人や家族等、かかりつけ医等の関係者と話し合いを繰り返しその時々本人、家族の意向を確認しながら対応方針の共有を図る。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に意識の向上を図ると共に、日々の関わり方を主たる職員が点検し、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応の徹底を図っている。	○ 利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向けて取り組みや、個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止に取り組む。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員側で決めたことを押しつけるようなことはせず、複数の選択肢を提案して一人ひとりの利用者が自分で決める場面をつくっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個性のある支援を行っている。買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。	○ 一人ひとりが本来持っているペースや、望んでいるペースに合わせた暮らしの支援がなされているかを確認し一人ひとりのペースを守るための工夫を行なう。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせ支援をし、また、行事等日頃から本人が主体で身だしなみが整えられるよう、職員でお膳立てをしたり、不十分なところや乱れをさりげなく直したりと、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。馴染みの理美容院で希望にあわせたカットや毛染めをしてもらえるよう、連携をとっている。	○ 一人ひとりの個性、希望、生活暦等に応じて、本人の好みや意向、持っている力に応じて、髪型や服装等の身だしなみやおしゃれを個別に支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の決まった食材と合せて一緒に畑で取った野菜等を使って、調理、盛り付け、片付け等も利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルで囲んで楽しく食事をできるように雰囲気づくりも大切にしている。	○ 食事一連の作業を利用者と共に職員が行い、一緒に食事を味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものになるように支援していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間を見ながら、それらを楽しめるように支援している。また、たばこについては、自己管理のもと本人の希望に沿って他の利用者の迷惑にならないように、換気のよい場所で吸えるよう配慮している。お酒は誕生会等に楽しんで、飲んでいただいている。	

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握しトイレ誘導することで排泄を促している。排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援している。	○	一人ひとりの排泄パターンを把握し、生活リズムにそったさりげない支援をしていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入浴していただいているが夜間入浴は行っていない。	○	日中に入浴出来ていない人については夜間に入浴を勧めてみる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中に活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休憩が取れるように支援している。また、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりをする等配慮し、就寝に向けてリズムが安定するよう工夫している。	○	体調に応じて一人ひとりが必要な休憩や睡眠を取れるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また、食事作りや畑の野菜作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面をつくっている。	○	日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるように、暮らしを共にする中で、一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけていく支援を行う。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出すことで社会性の維持につなげており、小額を手元に持ってもらっている。また、家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも外出時や喫茶店のお金などは自分で払っていただけるようにお金を手渡すなどの工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につなげるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。	○	外出する利用者のその日の状態や本人の習慣、有する力、希望、季節や地域のその時々状況に応じて、外出が楽しめるよう支援に取り組む。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	バルーンカテーテル留置の利用者、車椅子対応の利用者などグループホーム内での入浴しか出来なかった方に対して近隣の温泉施設に了解、承諾を得て温泉入浴に外出した。	○	今後も近隣の温泉施設への外出を実施したい。

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自ら電話したり、手紙が出せるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも気楽に訪ねられるように来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間などは定めておらず仕事帰りや家族の都合のいい時間帯に、何時でも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。	○	本人の馴染みの人たちが気軽に訪ねやすく、居心地よく過ごせるように自然な形で歓迎し、さりげなく間を取り持つような支援を行う。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について禁止行為を十分に理解しており、いかなる身体拘束を行っていない。	○	全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は拘束に付いて十分に理解し施錠していない。園外へ出て行こうとされる時はさりげなく声をかけ利用者が納得するまで一緒に散歩する等、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるように支援している。	○	居室の窓は掃きだし窓で施錠していないため外に出られ、玄関、勝手口、門扉も日中は常に開門している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員が利用者を見守りやすい位置にいて、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は居室が見渡せる場所で休む等、定時に利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐに対応できるよう工夫している。	○	利用者の動きやサインを察知しながら全員の様子を見守りやすい位置からさりげなく常に見守る。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物品は何かを職員で把握し、管理方法を取り決め全てを取り除くのではなく、ケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。また日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。万が一事故が発生した場合には、速やかに家族や関係機関に連絡すると共に、事故報告書を作成し、事故原因の予防対策について検討している。	○	職員からのヒヤリハットの報告や危険への気づきに関することを記録し事故防止策を具体的に検討する。

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	怪我、骨折、発作、誤嚥、意識不明等の対処方法等について、看護師から学んだり、消防署の応急手当や蘇生術の講習に参加している。	○	全職員が応急手当等の適切な行動がとれるよう研修会を行なう
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認や消火器を使って消火訓練を行っている。	○	昼夜を通じて様々な災害の発生を想定し、職員と利用者が一緒に定期的に避難訓練を行なう。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、起こり得るリスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを家族に理解していただけるように努めている。	○	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、把握し家族に対応策等を説明する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に顔色や様子に注意し体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、直ぐに看護師や管理者に報告するとともに職員間で共有し、対応している。	○	職員は一人ひとりの様子を把握し変化や異常に早期に対応できるよう努める。報告や記録等において発見や対応の遅れのないかも確認する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の処方箋をケースごとに整理し職員が内容を把握できるようにしている。投薬時、直接、口中に与薬する、または本人に手渡し、服薬を確認するなど利用者の理解度に応じてきちんと服用できているかを確認をしている。	○	全職員が薬の内容を把握し飲み忘れや誤薬を防ぐ。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。体操や散歩等身体を動かす機会を設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。	○	便秘予防に向けた食事やおやつ等食材やメニューの工夫を行なう。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きや義歯の洗浄は食後や就寝前に職員が声をかけ、見守りや介助を行っている。また、咀嚼状態に応じて歯科受診を援助している。	○	職員全員が口腔ケアの重要性を理解し口腔ケアに努める。

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者と同じテーブルについて食事するため、利用者個々の摂取状況を観察し把握している。体調不良等飲み込みの悪くなった方等については、食事や水分摂取状況をチェック表に記録し職員が情報を共有している。	○	体調の変化に気付き必要な摂取量が確保出来るよう、普段の個々の食事、水分摂取量を把握する。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、取り決めを作り早期発見、早期対応に努力している。また、利用者および家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用する等、予防も徹底している。	○	感染予防について定期的に勉強会等を行い、保健所や他の事業所と連絡を密にして感染症の流行や対応策について情報を得る。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、毎晩漂白し清潔を心がけている。食材は鮮度や状態を確認し調理している。冷蔵庫内には必要以上の食材を保管せず、庫内の点検と衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になるように、花を生けたり玄関先にプランターを置いたり近所の人立ち寄りした時に一息つけるようベンチを置いたり工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングがキッチンと対面しており、食事を作る姿、食材を切る音、ご飯の炊ける匂い等が感じられる。また、季節の草花や絵を飾ったりして明るく和やかな空間になるよう配慮している。	○	居心地のよさや心身の活力を引き出すために生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら暮らしの場を整える。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席とは別に自由に座れるようコーナーにソファや椅子を配置し歓談できるように工夫している。		

グループホーム幸せの里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や馴染みの物、使い慣れた日用品を部屋に持ち込まれ、利用者の居心地よさに配慮している。	○	入居の際に本人のお気に入りや思い出の品などを持ち込んでいただくようご家族に伝え今までの生活から隔絶しないように配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後、掃除の際などは窓を開け、常に換気に留意しており、外気との温度差に気をつけながら温度計、湿度計と利用者の様子をみながら調整している。	○	職員は常に空気の入替えや温度調節意識し冷暖房に頼り過ぎないようにする。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者本人の状態が変わり、新たに混乱や失敗が生じた場合は、ミーティング等にて職員一同で話し合い、不安要因を取り除き、自信や力を取り戻せるよう試みている。	○	本人にとって何がわかりにくいのか、どうしたら本人の力でやっていただけるか、を検討し状況に合わせて環境整備に努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑のスペースを確保し、利用者が日常的に楽しみながら活動できるような環境を作っている。ベランダにベンチを置いて、涼んだり日向ぼっこができるような工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム幸せの里

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご利用者のナースコールや訴えに対しては「ちょっと待って」という対応をしない・・・と決めています。認知症のお年寄りにとって「今」聴いてもらう接遇が大切だと思っています。